

始筆

No.3

令和3年11月22日
京都市小学校
書写教育研究会

秋の深まりを感じる頃となりました。遅くなりましたが、硬筆書写作品展では、校内審査・校内掲示など、例年とは異なる取組になりましたが、ご理解・ご協力頂き、本当にありがとうございました。

今回の始筆では、本年度から本格導入されているGIGA 端末を活用して、どのような学習を進めることができるのかを研究会で試行しています。今回は、指導計画をもとにGIGA 端末を活用した取組を紹介します。今後も、本研究会では、GIGA 端末を活用し、様々な学習展開を進めていきたいと考えています。

また、12月上旬には「書き初め展」に向けての指導のポイント及び審査基準、低学年の指導についての動画を配信する予定です。是非とも、ご活用ください。

校内掲示にも取り組んでくださった学校がございました。今後の児童の意欲に繋がる取組をありがとうございました。



第5学年 4 筆順と字形『成長』 硬筆の学習 筆順と字形（全3時間） 7月

1 単元の目標

- 正しい筆順と字形との関係を理解して、字形を整えて書くことができるようにする。
- 「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方の関係を理解して、字形を正しく整えて書くことができるようにする。
- 筆順と点画の接し方を確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができるようにする。

2 単元のポイント(□は、学習指導要領解説・国語編より。)

① 授業づくりのポイント

- 穂先の柔軟さが書写する際の筆圧を吸収し、強弱のあるリズムカルな運筆を可能にするという毛筆という用具の特性を生かして、書き始めから書き終わりまでを無理なくつないで書き進める効率よい書写のリズムを習得させるようにする。

② 主体的・対話的で深い学びのアイデア例

対話的な学びで、筆順と点画の接し方のポイントを確認する。(1時間目)

- 「考えよう」を参照して、「成」と「長」の一画目と二画目の接し方について気付いたことを話し合い、基準を確認できるようにする。
 - ・筆順どおりに書くと、点画の接し方も正しくなり、字形が整う。
 - ・筆順のちがいで、点画の接し方が変わる。
 - ・先に書いた画に、次の画が接するように書くと、字形が整う。

主体的に学習を進めるための練習用紙を用意(1・2/3時間目)

- 個々で主体的に学習を進めることができるよう、筆順と点画の接し方を確認できる練習用紙を準備する。
〔練習用紙〕
 - ・正しい筆順が分かるもの
 - ・点画の接し方が分かるもの
 - ・文字の大きさが分かるもの

支援コーナーを用意し、主体的に課題解決に向かう(2/3時間目)

- 支援コーナーとは、試書の後、教材文字と自分の文字を比べて自分の課題を見つけ、その課題に合わせて練習するための場である。

練習用紙コーナー…指導書添付のCDにある練習用紙に練習する。

→ 文字の外形・中心・大きさ・穂先の方向の理解と練習

③ ICT の効果的な活用例

活用方法

- ・練習をする際には、デジタル教科書等を活用して、自分のめあてに合った運筆動画を繰り返し視聴して書く。
- ・試し書きとまとめ書きを比べる際には、ロイノートで写真を撮って置いて比べたり、友達の作品を共有して見合ったりする。

活用の効果

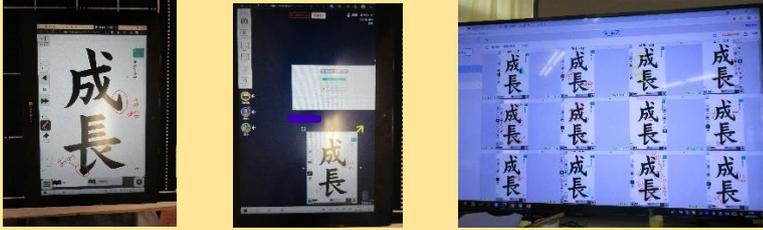
- ・自分の作品を容易に比べることができたり、友達と作品を見て話し合ったりすることができ、自分や友達の下さに気付いたり、めあてに沿った振り返りをしたりできる。

3 本単元の評価規準例【1単元で評価規準の全ての観点を記録に残す評価として評価しなくてもよい。】

○知識・技能…知

- ①「横画」と「左はらい」の筆順と点画の接し方の関係を理解して、筆順と字形に注意して正しく整えて書いている。
- 主体的に学習に取り組む態度…態
 - ①正しい筆順と字形との関係を理解し、字形を整えて書こうとしている。

4 指導計画例【指導のポイント ①手立て ②配慮事項 ③他教科との関連 ④個別支援】

時	○学習活動 ◆主な発問・指示 子どもの反応	指導のポイント	評価
1	<p>[学習課題] 筆順に気を付けて、字形を整えて書こう。</p> <p>○正しい筆順と字形との関係を理解し、字形を整えて書く。 ◆筆順に気を付けて、字形を整えて書こう。 《試書》『成長』を毛筆と硬筆で書く。</p> <p>★教材文字をなぞる。 ★基準確認をする前にどんなことに気を付けて書いたらいいのかを児童一人一人考え、書き込み、基準に児童が自ら気付けるようにする。</p>  <p>① 自分の手元のデジタル教科書に自分が気付いた教材文字を書くときに気を付けるところを書き込む。 ② 指導者が用意したロイノート（Loi Note）の提出箱に自分が書き込んだものを提出する。 ③ 提出されたノートをもとに基準確認を進める。</p> <p>《基準確認》「成」と「長」の一画目と二画目の接し方はどのようなになっているのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆順どおりに書くと、点画の接し方も正しくなり、字形が整う。 ・筆順のちがいで、点画の接し方が変わる。 ・先に書いた画に、次の画が接するように書くと、字形が整う。 <p>《練習》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題に合わせて練習用紙を選んで練習する。 <p>《まとめ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめ書きをする。 ・試書とまとめ書きを比べ、基準に照らして書けているか自己評価・相互評価をする。  <p>振り返り（自己評価）についても、ロイノートを使って個々に行い、それを皆で共有することから、相互評価につなげた。</p>	 <p>筆順を確認する前に児童が教材文字の上をなぞった。すると、児童の筆順の実態が確認できた。今後は、筆順を学級で確認してから行い、正しい筆順を定着させた方がいいのかもしれない。</p> <p>① 話し合いを通して、左記の基準を知ることができるようにする。</p>  <p>② 各自の課題に合わせて練習できるように練習用紙を用意する。 ③ 自分の課題を確認してから書くようにする。</p> <p>④ 自己評価や相互評価をすることで、自分の課題を見付け、次時の目標をもてるようにする。 ⑤ 点画の接し方を評価できるようにする。</p>	<p>態①</p> <p>知①</p>

記録に残す主な評価場面（例）

- ・態①「正しい筆順と字形との関係を理解し、字形を整えて書こうとしている姿」【3時間目】
- ・知①「『横画』と『左はらい』の筆順と点画の接し方の関係を理解して、筆順と字形に気を付けて字形を整えて書いた作品」【3時間目】